

IV 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(6) 化石鑑定会・昆虫相談会

8月11日(日)山の日に化石鑑定会とこのムシ何ですか？相談会（昆虫相談会）を開催した。

①化石鑑定会

仙台市とその近郊は、主に中新世以降の化石を多産する露頭が数多く存在する地域として全国的にも有名であり、小・中学生をはじめ大人にも化石の収集を趣味としている愛好家が多い。また、この化石鑑定会は、研究機関や学会等との連携を図るだけでなく、参加者が持ち込んだ化石や、相談内容から、仙台をはじめ各地で新化石産地や新種化石、あるいは未報告であった化石が見つかることがあり、化石研究に対する貢献という両面から、学芸的事業としての価値も高い。

当館の化石鑑定会は、大学等研究機関の学識経験者と地元仙台の化石研究会である、みちのく古生物研究会のボランティアによる協力のもと、小中学生をはじめ、アマチュア愛好家が採集した化石の同定を行うとともに、標本の製作方法などを学ぶ場として開催している事業である。

令和元年度の参加者は70名であった。常連から初心者まで経験の差はあったが、専門的な鑑定に加え、化石のクリーニング方法や資料の整理方法など、基本的な指導も行われ、好評であった。



<化石の専門的な同定をうける様子>

②このムシ何ですか？相談会（昆虫相談会）

自然に恵まれた仙台市周辺では、昆虫愛好家が多く、また、自由研究として昆虫採集・標本作りに取り組む小・中学生も多く当館への相談も多い。この昆虫相談会は、地元宮城の昆虫研究会である、宮城昆虫地理研究会の協力のもと、市民が採集した昆虫の同定を行うとともに、標本の製作方法などを学ぶ場として開催した事業である。以前は「昆虫相談会」として開催していたが、平成28年度特別展「見て！触って！わくわく昆虫館」以来、名称も親しみやすさを考慮し「このムシ何ですか？相談会」とした。

令和元年度の参加者は84名であった。昆虫採集の方法や標本の作り方の相談の他、昆虫の生態など昆虫に関する様々な質問が講師に寄せられ、参加者の昆虫に対する興味関心はさらに高まった。

また、これに先立って行われた自然観察会「台原森林公園の昆虫」の際に採集、標本化したチョウを展翅板から外し持ち帰っていただいたが、多くの子ども達にとってこれらの観察会、相談会は昆虫採集、標本づくりの大きなきっかけとなった。



<「台原森林公園の昆虫」で作った標本を受け取る様子>